

# ICTで現場を“楽CIM”

## CIM解決研究会

「現場が楽になることに集中して取り組んでいる」。CIM解決研究会の活動内容を、齊藤学一代表理事はそう表現する。CIMやICTで現場を「見える化」し、「現場の困った」を業界の垣根を越えて関係者が解決する「ため毎月勉強会を開催する。目指すのはi-Constructionを始め中小建設企業の「駆け込み寺」だ。

勉強会にはCIMやBIM、ICT施工に関する国内外のソフトウェアメーカーやゼネコンのICT担当者が講師として登壇する。研究会が支援しているICT土工現場の進捗状況も逐次報告し、ライブ中継を取り入れるなど実務に即したUAV（無人航空機）や3Dレーザースキャナーの活用も紹介している。「研究会のネットワーク



齊藤代表理事

北陸整備局での講習会



や現場を便利にするノウハウを会員と共有するハブの役割」を自認する。

会員間のコラボレーションも加速している。直近では日本スパーマップを中心にCIM、3次元GIS（地理情報システム）、ビッグデータの連携を図るGIS分科会が発足。会員が得意分野を持ち寄り、独自の維持管理用GISソフトの開発を視野に入れる。5月に産学官連携による技術交流会を開く予定だ。

ICT施工用のUAV講座も開講し、Task、アクティオなどと訓練校を展開している。UAVとICT建機が常駐し、ICT施工の一連の流れを習得する場を埼玉県鳩山町に設けた。北陸地方整備局が開いた受発注者双方のICT土工の講習会に、研究会の福士幹雄氏（ユタカ工業）が講師として登壇するなど、産官の連携も深めている。自身が「スコップマン」から現場監督まで経験した叩き上げだからこそ現場に必要な改善点が見える。「顧客が難しいと思うことをICTで簡単にしなければならぬ。『楽CIM』（たのしむ）ことで、現場をつくりあげる実感と達成感を感じてほしい」と強調する。

研究会を主宰するほか測量設計のマナブ側建、施工のユタカ工業を経営し、客先のニーズに応じたi-Construction導入を支援している。視線の先には海外がある。「インフラ投資が盛んなモングルや東南アジアに注目している。将来的な需要を見込むには海外しかない。現地のゼネコンと連携し、最先端の日本の施工技術で現場を徹底的に効率化することでニーズを掘り起こしたい」と先を見据える。